

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域の中で、いつまでもその人らしく暮らして行けるよう「いっしょに ゆったり 楽しい共同生活」を標語に掲げた理念を持っている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	誰にでも目につく所に理念を掲げ、職員には携帯できるカードにして渡し実践されるよう努めている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	重要事項説明書に記載し入居前に説明したり、来客の方にも見ていただけたところに掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の理容院の利用や畑のお世話の話など、普段からのあいさつや会話を心掛けている。また、近隣の住民の方を招いて年末に餅つきを行なった。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会に加入し、敬老会への参加や、近隣保育園の運動会への招待、小学校授業での見学の受入、地域とのかかわりを持っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の清掃活動や、こども110番の事業所登録をしている。また、介護保険に関する相談や、サービスの紹介等を行なっている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年の外部評価の結果を職員に伝え、改善するよう努めており、前回の外部評価以後改善された項目がある。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営委員会で意見や情報を頂き、地域とのかかわりが持てる行事への参加や、近隣の方を招いて行事を開催するなどサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営に関する疑問や質問に対して、電話や直接出向いて相談するなど、常にかかわりを持ってサービスの向上に努めている。舞鶴市主催の研修会にも参加し、訪問による口腔ケア研修も実施していただいている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修があれば参加するよう努めており、法人として相談できる体制をとっており、希望があれば活用の意思もある。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等の参加に努め、日頃の支援を虐待行為と照らし合わせ行なっていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>サービスとして提供できない事柄についてはハッキリと伝え、重要事項説明書により説明を行なっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>計画作成時に希望や不満等お伺いする機会を持ち、日常的には利用者に何でも言っただけの関係作りに努めたり、家族参加の行事を催し、話して頂く機会を設けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>行事ごとに編集した写真をお送りしたり、金銭管理については事業所の立替払いとなっているが、毎月の請求で領収書を添付し報告している。職員の異動については、利用者様一人ひとりに対して担当制を実施しているので、用件のある際などに担当が連絡を取り紹介している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置や、外部の苦情相談窓口を重要事項説明書で紹介させていただいている。また、家族参加の行事を催し、相談していただける機会を設けている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングの中で運営に関する意見を述べる機会を設け、出された意見に対応している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の活動状況に合った体制計画しとるよう努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新規採用の職員等には、利用者に対するダメージに配慮し、一定の期間なれた職員が職員が同じシフトで動くなど配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全員に対しその能力や経験年数等を考慮して、本人に合った研修を受けられるようその都度配慮しているが、研修開催についての情報が少ないので定期的に開催される研修については、1年の中で受けてもらうよう計画している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加盟し、年3回の研修会の中でディスカッションの機会を設けていただき交流を図ったり、職員交換研修への参加も希望している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人での親睦会の設置と行事やくつろげるソファの購入など、ストレス軽減に取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の意見を取り入れたり、資格取得に対する援助を行なっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には本人との面会を行い、本人のお話を聞いたり、伝えられない方に対してはご家族にお聞きするなどしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用申込みの際に、ご家族が困っておられる事柄を記載する欄を設け、また、入居前にもその状況に関するお話を伺う機会を持っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に関する相談があった時点で支援の意向をお伺いし、同一、他法人を問わず適当と思われるサービスの紹介もなっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況に応じ、日帰から泊まりへの移行の様子を見ながら相談し対応したり、状況に合わせて環境に慣れていただけるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの習慣や、馴染みがある生活の知恵など職員が尋ねる機会がある。職員に説教してくださり、なるほどと思うことや、労いの言葉を頂くと励みになっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも、利用者に適当と思われるサービスの事柄があった場合は、職員だけでなくご家族にも一緒に取り組んでいただいている。また行事にも参加していただける機会を持ち一緒に楽しく過ごしていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者のご様子を写真などでお伝えしたり、頑張っておられる事柄を伝えることで安心していただけるように努め、また、ご家族とふれあう機会が持てるよう行事を行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や知人に会いに行く為の支援体制にあり、昔住んでおられた地を訪れたり、手紙を書かれるようおすすめしたりしている。また、面会に来られた方が再来していただけるよう職員も接する努力をし多くの方に面会に来ていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	百人一首などのレクリエーションも集団で声を掛け合ったり、家事などを分担して取り組んでおり、気遣いや、お礼の言葉などを交わされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が中止になった利用者や家族に対しても、法人全体のサービス等を提供しかかわりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画作成時に本人の希望・意向を確認したり、家族のお話や、グループホームの生活の中で発見した事柄をミーティング等で話し合うことにより把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人にお伺いしたり、センター方式のシートを利用し把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の1日及び近日の様子を記録や業務の引継ぎで把握したりミーティングで情報を共有するよう努めている。	○	記録を手書きで行っているため、よい方法があれば検討したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望を記載しており、職員の意見は毎月のミーティングで話し合ったり、計画案の段階から職員全員が意見を出す機会を持ち、計画作成担当者がとりまとめ、作成している。	○	限られた時間の中で様々な意見があったり、聞き取りきれない意見やアイデアもあるため、より良く反映できるよう更に努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者及び家族の意向や、毎月のミーティングでの職員の意見や本人状況により検討し、約3ヶ月に一度は見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や職員の対応を記録し情報を共有しながら利用者に接し計画書にも活かしている。また、援助項目にコード番号をつけ計画書に沿った内容の記録と実践が出来るよう努めている。特記事項については、日に3度の引継ぎと連絡ノートにより把握するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望から、利用者の身体状況に応じ併設事業所の設備を使用してサービスを提供したり、ご家族の状況で通院に付き添うなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の交番や地域消防団に利用者の情報を提供し、緊急時の協力を依頼したり、地域委員の方との繋がりを持ち敬老会などにもご招待いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望に沿って他のサービス利用を支援する体制にある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	気軽に問合せや連絡をとれる関係にあり、利用者の意向や対応の必要性がある場合には協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療サービスの必要な方に対してはかかりつけ医を指定いただき、通院時には情報を提供し適切な医療サービスが受けられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談や診断・治療を受けられる専門医との連携体制がある。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人の看護師が医師と共に日常的に出入りし、365日・24時間体制で健康管理を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、病院側と連絡を取り合い、在宅復帰が可能な方法を検討し、出来るだけ早く退院できる様話している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化された場合の終末期の意向を伺い、定期的に利用者のご様子を報告し必要な支援を行っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまでから家族・医療との連携をとり、ターミナルケアを行った実績がある。また、今後もその体制にある。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移転される場合には、自宅・事業所を問わず介護医療に関する情報を文章等により提供させていただき、利用者に対するダメージが少なくなるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は言葉遣い、言葉掛けの配慮に努めている。個人情報、事務所内の鍵つきの書庫に保管し外部への持ち出しを禁止している。	気さくに話していると、ついつい言葉が乱れる事があり気をつけたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、職員の提案ばかりでなく利用者を選択して頂けるよう、理解しやすい声の大きさや早さにも配慮し、繰り返し問い掛けるよう心掛けている。	○利用者様が納得し安心されるよう、共感できる姿勢を全員の職員が常に持ち、対応できるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全員の状況に応じ、他の方との兼ね合いも考えながら一人ひとりに合わせた支援に努めている。希望を伝え難い方は、担当職員を中心にミーティングなどで話し合って実施している。	○対応が重なると待っていただいたり、後回しになる事があるが、人間的なこと等整備しないといけないことはあるが、更にゆったりと個々のペースで過ごせるよう努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みのある美容院に行っていただいたり、衣類等選択が難しい方については家族にお聞きしたりや職員から見てその方に合った服を着ていただけるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをお聞きしたり、調理や配膳、後片付けを一緒に行っていただいている。	○調理など一緒に行なっているが、職員のペースで行っていただいているところもあり、理解していただきながら生き甲斐になるよう取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	火気の取扱については、多少の制限はあるものの安全に喫煙して頂ける環境を整備したり、その他 関係機関と相談しながら希望に応じる体制にある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ等の使用を少なくしトイレでの排泄を主に考え、継続して行なっていただけるよう支援している。オムツの使用率も以前より少なくなっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を9:00～20:00で設定し、声掛けにより入浴の確認・支援を行っている。自主性に任せると殆どの方は入浴されず、職員から声を掛けさせていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の健康や疲労、習慣に合わせて休息をとっていただいたり室温の調整を行ったりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式による生活暦等の把握を行い、個々に合わせた趣味や楽しみを把握し、日常のレクに取り入れたり、役割としての支援等行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じ自己管理していただいたり、立替払いをしている。買物時には、立替払いとなるが好きなものを買ってもらう事がある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物の機会を利用し外出を希望される方には出掛けていただいたり、希望を言われない方については職員から声をお掛けし、外出の機会を持つよう努めている。また、定期的には全員での外食の機会を設けている。また、外部に出てゆくことが難しいときは、中庭やベランダに出て気分転換を図っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常的には外出する機会を持ち、ご家族との外出される方もある。遠方への希望があれば支援するよう考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の能力に応じて、電話や手紙を出していただけるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問については、その妨げにならないよう配慮し、繰り返し足を運んでいただけるよう職員も接客に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないものとし、日頃のケアの中で拘束となり得る事柄は指導・注意を行い、拘束を行なわない方法を検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	季節によっては、職員の体制で安全を確保できる範囲で扉を開放し施錠しない努力をしているが、通年では取り組めていない。	○	安全面での職員の体制の確保と、併せて現状でのリスクに対するご家族の理解を統一して図っていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様の過ごされる場所は基本的には自由で、所在については常に把握し、夜間の巡回を含め安全にも配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	塩素系消毒等の特に危険なものについては、利用者様の状態に応じ、日常を過ごされる場所にはおかないよう配慮し、直接触れることのないように管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの記載等により事故を防ぐ対応を学び・話し合い、一人ひとりの特性に応じて取り組んでいる。	○	転倒についてはかなり気をつけているが、以前にもあり今後はなくなるようヒヤリハット等を活かしながら、個々に応じたその方法を検討し続ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	市消防署の救命救急講習を受講したり、避難訓練、応急手当・初期対応の訓練を事業所内で行ったりマニュアルを整備している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施と、近隣交番と地域消防団に対する情報を提供し、災害時に協力いただけるよう依頼している。また、面会のご家族にも避難訓練に参加していただいた。	○	グループホームが2Fに位置し、利用者様の重度化も伴い、現在出来ることの訓練と、リスクを少なくする方法・設備を常に検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前に利用者様の状態に応じ、起こり得るリスクについてはご家族に説明し入居していただいている。また、入居後も状態の変化に応じ同様にお話をさせていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の病状に応じたバイタルチェックの対応や、排泄・入浴時に異変が無いかチェックしたり、常に利用者様の顔色等の状態を観察し、医療機関との連携を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の服用されている薬の効能等を確認できる状態に置いており、服薬の支援については複数の職員で確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の摂取やすいぶんの摂取、運動に対する取り組みを日常生活の中で行えるよう働きかけ、支援の必要な方は排便記録をつけ把握するように心がけている。	○	利用者様の重度化が進んで歩行での外出も難しくなっているが、体操・散歩などに取り組んでいきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援を必要とする方に対しては、食後のケアに取り組み、また研修の受講や歯科検診の実施、市の研修を利用して事業所内で口腔ケアに関する指導をいただき実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養師による定期的な栄養指導や、食事量の記録、水分を摂る時間を設けたり、いつでもお茶を飲めるようテーブルの上にお茶と湯飲みを置いている。また、個々の好みを取り入れ食欲を促す工夫や、機能的な点でもストローの使用や、箸の長さ、器の重さ・大きさも変えている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	除菌水噴霧器の使用や、設備消毒の取り決めがあり、利用者様・職員ともに手洗いを徹底し感染症の予防に取り組んでいる。	○	身体的な事もありうがいが出来ておらず、もう少し積極的に取り組みたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、その都度購入するようにしており、調理器具の消毒、冷蔵庫の清掃等衛生管理を行い安全に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を入ったところに手作りの表示をつけたり、季節の飾り付けをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の趣味の作品展示や、季節に応じた壁飾りを利用者とともに作成し飾っている。また、強い光が当たらないよう蛍光灯も工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	壁では仕切られていないが、ソファをおいてくつろいで頂ける場所を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の持込を依頼したり、ご家族の写真やお好きな人形を飾ったりと、心地よく過ごしていただける空間作りに努めている。利用者によっては仏壇や家具を多く持ち込まれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気できる設備があり、室温・湿度の調節も利用者様に合わせて行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を無くし、手摺の設置やどの部屋からも近いトイレの配置になっており、自立した生活が送りやすいよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の特性を把握し、理解されやすい声を掛けたり働きかけ、その人なりの自立した生活が送れるよう努めて。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やベランダに出て過ごす時間を持ち、気分転換等に活用している。	○	居住スペースが2階だが、中庭に行く機会をもう少し増やしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が一つの事に一緒に取り組める。